

令和3年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	11	講習名	【選択⑪】ことばへの気づきを促す英語アクティブ・ラーニング				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
馬本 勉	オンライン	6時間	小学校教諭, 及び中学校・ 高等学校英語科教諭	30人	同時双方向型講義 (ZOOM等)	筆記	
開催日	8月21日(土)		予備 日	月 日 ()			
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業を改善する視点と方法を理解し, 具体的な実践をイメージできる。 ・アクティブ・ラーニング型の授業方法を理解し, 実践できる。 							
【講習の概要】 <p>小学校・中学校・高等学校における外国語活動ならびに英語科授業の改善に資する理論と, 実践のヒントを提供する。アクティブ・ラーニングを取り入れたオンライン講義を通じ, 受講者が自らの授業を振り返るとともに, 新しい授業創りへの道筋を探る。具体的な教材を用いた演習の時間を設け, 学び手としての気づきを促す活動も取り入れる。</p>							
【講習の内容】 <p>講義1：文法・語彙指導のヒント(1) 英語習得過程にある学習者(頭の中心)の「文法」と「語彙」をいかに豊かにし, 使えるようにするか。その方法の一つとして, フレーズを中心とした指導法 Lexical Approach について理解を深める。</p> <p>講義2：文法・語彙指導のヒント(2) 講義1に引き続き「文法」と「語彙」を扱う。講義2では, 英英辞典やマインドマップを用いて「ことば」への気づきを促し, 様々な練習によって運用力を高める方法を検討したい。</p> <p>講義3：コミュニケーション能力を高める授業作りのヒント 音声や文字情報だけではなく, 映像や文化的な情報を組み合わせながら, 英語コミュニケーション能力を高める方法を学ぶ。教師自身が様々なメディアから情報を収集する方法や, それを学習者に的確に伝える方法についても考えていく。さらに, これらを駆使して授業を組み立てる工夫について, 実践的に学ぶ。</p> <p>講義4：第二言語習得理論と英語教育史研究からみた「英語アクティブ・ラーニング」の展開 現在, 第二言語習得研究がさかんに行われ, 新しい知見によって, より良い英語教育を模索する動きが続いている。同時に, 古くからある教授・学習方法を歴史的に検討し, 現代的な意義を見出す試みも行われている。 これからの「英語アクティブ・ラーニング」は, こうした新機軸と伝統の両面を踏まえ, 実践を重ねることが重要と考える。新旧にわたる知見を共有し, 「アクティブ・ラーニング型英語授業」の本質をつかむ議論を深めたい。さらにこの講義では, オンライン授業の可能性について, 実践的に検討したい。</p>							
【備考】 <p>試験の際, すべての講義資料等の参照を認める。</p>							